

July
2017

No. 29

赤レンガ通信

北海道テレビ放送株式会社 (HTB) 見学

北海道

www.pref.hokkaido.lg.jp



HTBの世界へ

2017年6月19日、北海道庁の国際交流員が北海道テレビ放送株式会社 (HTB) のスタジオを訪問する機会がありました。テレビ放送のスタジオを初めて訪問することができ、カメラの前に立っている人たちも裏方のスタッフさんも一所懸命働いている姿に感動しました。

オフィシャルのツアーが始まる前に、私はどうしても行きたいところがありました。HTBの本社の近くにある平岸高台公園です。水曜どうでしょうの大ファンの私にとって、その公園はパワースポットになっています。他の国際交流員を連れて、前枠後枠の撮影現場であるそこで、水曜どうでしょうのポーズなどをとったりしました。ドリームカムツアーでした！

HTBの社員の方は私の水曜どうでしょう愛に喜んでいましたが、動画配信サービス「ネットフリックス」で初めて水曜どうでしょうを知ったことに驚いていました。DVDはなかなか手に入らないため、ネットフリックスで見られるようになり、水曜どうでしょうは海外の方にも人気を集めていると思います。私はネットフリックスを通して水曜どうでしょうを発見しましたが、今度の水曜どうでしょうの新作はHTBの6ちゃんで見たいと思います！

水曜どうでしょうの話はここまでにします。オフィシャルのツアーもとても楽しかったです。社員の方の

後について、迷路のような本社を歩きました。HTBの本社は同局の50周年を迎える2018年に移転する予定だとうかがいましたが、現在の会社はいっぱいの状態でした。

最初に訪問したスタジオでは、カメラの前に座り、初めて放送でニュースを読み上げる「初鳴き」に向けて、新人アナウンサーたちが原稿を読み上げたり、先輩のアナウンサーたちから指導を受けたりしていました。国際交流員の3人でアナウンサー席に立って、カメラの前に立って見ました。アナウンサーのデスクの上に日本語発音辞典がありましたが、その辞典を使って発音を勉強することは面白いと思いました。私の発音もまだまだ不自然なので、私もその辞典を使って勉強した方がいいと思ったのです。

次に訪れたのはたくさんの方が忙しく仕事に取り組んでいて、とてもにぎやかな部屋でした。編集者からアナウンサーまで、さまざまな人が協力して良い番組を作るために一所懸命働いています。テレビ放送する前に、取材に行く人や編集者、カメラマン、アナウンサー、回線収録を担当している方、数えられないほどの人がそのストーリーにかかわっており、とても感動しました。

本社をツアーした後、平日の夕方に放送する情報番組「イチオシ！」の生中継を見学することができまし

た。まずは、副調整室へ行きました。映画のように、壁にはたくさんのテレビモニターがあり、秒数を示す大きな時計が壁の真ん中にありました。そこにいた社員の方は全員ヘッドセットマイクをつけ、さまざまな機械を操作していました。生中継でしたが、意外と皆さんは冗談などを言ったりしてリラックスしていました。やはり毎日生中継をしていると、慣れていくのかもしれない。

最後に訪れたのはイチオシ！のスタジオでした。運がとても良く、その日のスペシャルゲストは新しいアルバム「和と洋」をPRするために来道した日本の歌手AI さんでした。AI さんは楽しそうに番組内の買い物ゲームに挑戦していた一般女性を応援したり、アメリカのソーセージや札幌大通公園の焼とうきび茶を試食したり、生で歌も披露していました。

さまざまな経験ができ、とても楽しい時間になりました。

した。北海道の皆さんに愛されているテレビ放送局HTB をより知ることができ、新たにHTB の魅力も感じることができました。北海道にいる間HTB をこれからも楽しみに観たいと思います。HTB の皆さん、素敵な機会を与えていただき、ありがとうございました！



平岸高台公園で水曜どうでしょうのポーズ！



on ちゃんと手をつないでみました。



近所に愛されている on ちゃん



私たちがアナウンサーに！



さまざまな機械が使われています。



副調整室にお邪魔します～



初鳴きに向けて新人アナウンサーが原稿を読み上げます。



回線収録センターで上空から道庁を見ることができました。



CMなどの放送素材が保管されています。



水曜どうでしょうコーナーで四国八十八ヶ所の大泉洋さんのポーズをとってみました。



北海道 JET スポットライト



北海道にはアメリカ、カナダ、シンガポール、中国、韓国、ドイツ、フランス、ロシアなどから約250人のJETプログラム参加者(外国語指導助手、国際交流員、スポーツ国際交流員)がいます。赤レンガ通信ではたくさんの国々からやって来て現在北海道で暮らす人たちのストーリーを伝えていきます！



MEET MICHAEL CRISOSTOMO



なぜ北海道へ来たのですか。

A JETプログラムで北海道に派遣されてのですが、正直に言うと、JETプログラムに申し込みをした時、北海道は派遣希望先に入れていませんでした。もちろん雪や冬を経験できるとワクワクしましたが、南国出身ですので、寒い冬が何ヶ月も続き、日照時間も短いということに、少し怖気づきました。でも、美しい景色やおいしい食べ物で、そんな恐怖感は愛情に変わり、今、富良野での生活を満喫しています。

これまで北海道の経験はどうですか。

A 楽しみながら学んでいるというのがぴったりの表現だと思います。楽しい理由を挙げると、(1)北海道内をドライブし、目の前に広がる美しい景色を眺めると、心が温かくなる。そして、道すがら野生動物にも遭遇することがあるから。(2)スープカレーは天才的発明！(3)地元の人との交流(大小問わず祭りに参加)、ボランティア活動、ご近所の人とのたわいのないおしゃべり。地元の人との交流以上に真の経験は得られるものはないと思います。

学ぶという点に関する理由は、全てが「初めての体験」だ

から。初めての雪かき、反対車線の車の運転(自分の国と交通ルールが逆)、冬道での運転、などなどです。こういった様々な経験から、きっと来年の今頃には、かなりの物知りになっているのではないかと思います。

これまで一番印象に残っていることは何ですか。

A 子供たちとの時間を過ごすことです。現在、富良野市図書館の英語読書クラブでボランティア活動をしており、毎回子供たちがやってきた、一緒に歌を歌ったり、本を読んだり、ゲームをしたりすると幸せな気持ちになります。子供たちが英語に興味を持ち、英語が上手になっていくのを見ると嬉しい気持ちになりますが、それだけでなく、子供たちや子供の両親たちと絆ができるのも同じくらい嬉しいです。

富良野の好きなのところは何か。

A 富良野は、札幌、旭川、帯広などといった大きな都市へのアクセスがとてもよい場所に位置していると思います。また、夏冬ともに素晴らしい景色が見られます。夏には、谷や丘に広がる色とりどりの花や緑のカーペットが見られます(パラグライダーや花が好きなお方にはたまらない場所です)。冬の季節には、山々はパウダースノーに覆われ、映画製作者や写真クラブの人たちに人気の美しい真っ白な景色に変わり、富良野はスキー、スノボ、その他ウィンタースポーツに最適な場所になります。また、ここ富良野には、質の高いレストランがたくさんあり、食を愛する人にお勧めです。この絶妙なコンビネーション、誰もが富良野が好きになりますよね。

他に伝えたいことはありますか。

A 北海道には、京都のような日本の伝統的な趣きや東京のような喧噪はありませんが、発掘を持つ宝石がたくさん眠っています。ですから、じっと座っていないで、歩きやすい靴をつかみ、友達や地元の人と一緒に、冒険の旅に出かけましょう。

日本での生活を楽しむ一番いい方法は、日本の文化を理解した上で生活することだということはどうぞう忘れないでください。

マイカル・クリソストモさんはフィリピン出身で、富良野市の小学校で外国語指導助手(ALT)として勤務しています。自然に触れたり、神社に行ったり、道内をドライブしたり、道の駅にあるスタンプを集めたりするのが大好きです。